

# 防 除 情 報

長崎県病害虫防除所長

平成21年度病害虫発生予察防除情報第10号

## 大豆、野菜類、花き類のハスモンヨトウの防除対策について

ハスモンヨトウの発生が増加しています。今後、被害の増加が予想されますので下記の点に留意して防除指導をお願いします。

### 記

#### 1. 発生状況等

- (1) 8月前半の大豆圃場巡回調査(12筆)の結果、幼虫の寄生株率は16.7%(平年3.6%)、株当たり虫数は2.9頭(平年0.5頭)、白変葉発生圃場率は41.7%(平年45.0%)、平年よりやや多い発生であった。
- (2) 8月前半のいちご育苗床巡回調査(18筆)の結果、食害株率6.9%(平年1.8%)、食害発生圃場率94.4%(平年31.4%)、平年より多い発生であった(図1、2)。
- (3) 8月前半のアスパラガス圃場巡回調査(9筆)の寄生幼虫数(10側枝×10ヶ所)は0.1頭(前年0.2頭)、幼虫発生圃場率11.1%(前年11.1%)、前年並の発生であった。
- (4) フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年より多く推移している(図3)。
- (5) 気象予報では、向こう一ヶ月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。調査データは8月11日現在の数字。

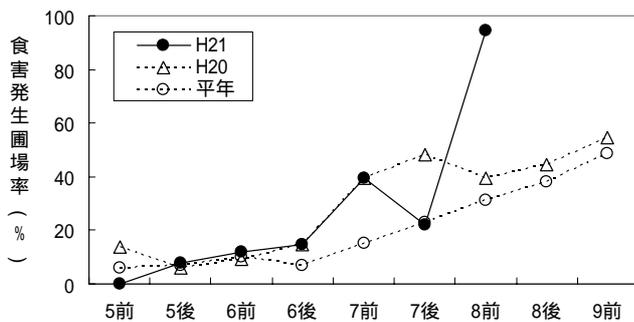


図1 いちご ハスモンヨトウ食害発生圃場率の推移  
平年: H11~H20の平均(最大・小値除く)

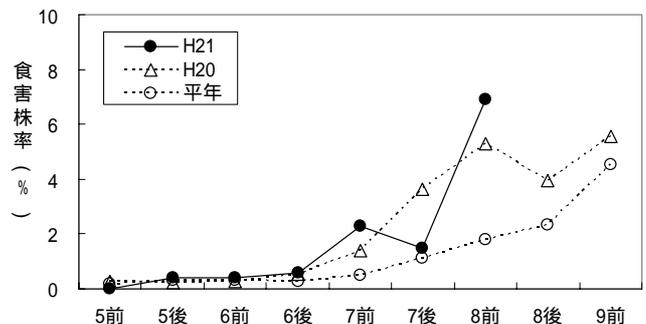


図2 いちご ハスモンヨトウ食害株率の推移  
平年: H11~H20の平均(最大・小値除く)

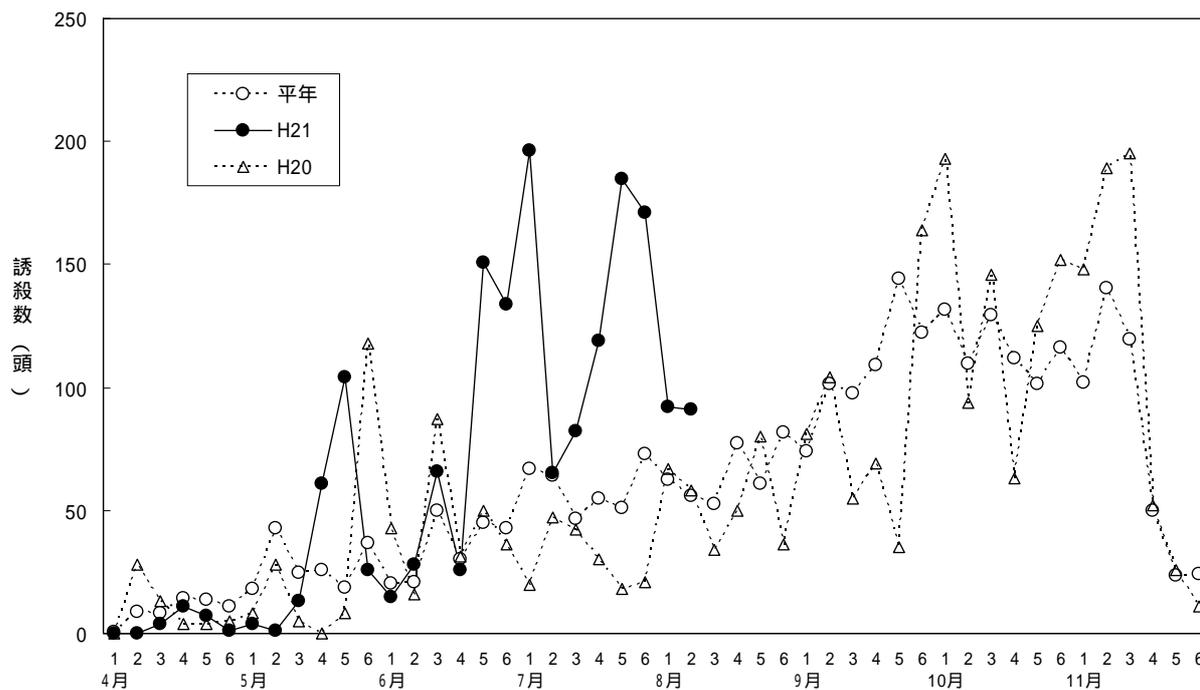


図3 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市)  
 平年: H11 ~ H20の平均値(最大・小値除く)

(月・半旬)

## 2. 防除対策

- (1) 大豆では圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見されるようになったら早急に防除を行う。
- (2) 野菜類、花き類でも同様に、被害が見られたら早急に防除を行う。
- (3) 幼虫は齢が進むと薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に防除を行う。
- (4) 薬剤は虫体によくかかるよう丁寧に散布する。
- (5) 施設栽培では施設開口部を防虫ネット(4mm目以下)で被覆すると、成虫の侵入防止に有効である。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027